

## <市民参画の目的>

令和元年度は都市づくりの視点等までを議論する検討段階であり、都市マスの策定の視点の素材、裏付けとするための意見を集めることを目的として、市民参画を実施した（検討段階で市民参画を実施するのは今回が初の試み）。対象については、以下の視点から「大学生」「転勤者」「まちづくり専門家」とした。

- 他都市と比較し仙台市の人口構成は学生の割合が多いこと／転勤者の割合が多いこと
- 転勤者は他都市と比較する視点で仙台市の特色に対する考えを持っていること

- 現在の大学生はこれからのまちづくりを担う世代であること
- まちづくり専門家は、規模の大小にかかわらず、地域の様々なまちづくりに関わっていること

## <開催概要>

### 1. 学生参画

対象：仙台市内・近郊の大学に通う大学生・大学院生で、まちづくりに関係する学科の皆さん

東北大学	工学部	建築・社会環境工学科
	理学部	地圏環境科学科
宮城大学	事業構想学部	デザイン情報学科
東北学院大学	教養学部	地域構想学科
東北工業大学	工学部	建築学科
東北福祉大学	総合福祉学部	福祉行政学科 ほか

#### ①都市計画に関する勉強会

開催日時	令和元年9月中旬～10月中旬
参加人数	延べ約120名
概要	各大学へ訪問し、仙台市都市計画マスタープラン及び11月に実施するワークショップのテーマ・事前課題について説明

#### ②学生ワークショップ

開催日時	令和元年11月9日（土）10:30～16:30
参加人数	34名（男性25名、女性9名）
概要	各大学混合のグループでワークショップを行い、STEP1～3のワークを通して、未来の仙台のまちづくりについて議論・発表を実施

STEP1  
理想のライフスタイルから考える、選ばれる都市の魅力

×

STEP2  
普段の行動から考える、仙台の特徴、まちの強み・弱み

→

STEP3  
暮らし続けたいと思える「未来の仙台のまちづくり」

#### ③学生発表

開催日時	令和元年12月5日（木）17:45～18:45
参加人数	約30名
概要	仙台市を取り巻く状況や学生ワークショップの意見等を踏まえた「仙台の未来のまちづくり」についての提案発表会を開催 発表題目：「めぐり・あう街 仙台」 発表者：東北大学計画制度学研究室

#### ④パネル展

開催日時	令和2年1月20日（月）～1月31日（金）
概要	上記の取り組みを市民に周知し、次年度の市民参画につなげるため、市役所1階ロビーにて開催

### 2. まちづくり専門家交流会

対象：市民が主体的に行うまちづくり活動に対し、市が専門的な助言等の支援を行うために派遣する、まちづくり専門家の皆さん

開催日時	令和元年10月23日（水）13:30～16:00
参加人数	19名
概要	市からの事業報告や参加者からのまちづくり活動の報告等の後に、『未来の仙台のあるべき姿・仙台のまちづくり』をテーマとして意見交換を実施



### 3. 転勤者意見交換会

対象：ONE TOHOKU（民間企業に勤務する20～30代の有志による自主勉強会）の皆さん

開催日時	令和元年12月3日（火）19:00～21:00
参加人数	14名
概要	『他都市と比較した仙台市の特徴（強み・弱み）について』、『これまでに暮らした都市で感じた魅力について』、『これからの仙台のまちづくりについて』をテーマにして座談会を実施



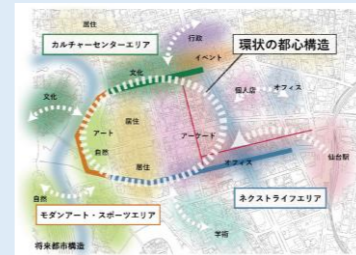
## <主な意見>

- ・6グループのうち5グループが主に都心を対象としており、各地区の特性をそれぞれ捉えて、それらを通りつなぎ、回遊性を高めるなどの提案を行っている。
- ・1グループについては市全体を対象としており、市内を大きなエリアに分けて都心と郊外との関係等も含めて提案を行っている。



グループ	タイトル	発表内容
Aグループ（都心）	緑のある駅チカ生活	緑を増やし、「杜の都」をより象徴的なものにする、仙台でしか見られない街並みに！
Bグループ（主に都心）	〇〇にであうまち仙台～移り変わる杜の都～	様々なモノ・コト・人に、「出会い、楽しむ」ことができる仙台に！
Cグループ（都心）	魅力を活かす街づくり	仙台らしさ、機能集約、新しい文化で魅力を活かす街に！
Dグループ（都心）	間の自生	駅やゾーンをつなぎ、間に仙台らしさを生んで、回遊性のある街に！
Eグループ（都心）	学生によるコンパクトシティの夜明け	住宅、産業、オフィスなど職住近接のコンパクトシティを！
Fグループ（市全体）	エリアごとに考えるまちづくり	エリアの強みを活かした街に！

- ・「仙台市中心部の発展が仙台市全体の活性化につながる！」という視点から、提案の対象を都心部としている。
- ・エリアの特色を強化し、環状にそれらをつなぎ、目的のモノ・コト・ヒトに「めぐり・あう街」を実現する将来都市構造の提案を行っている。



## ■未来の仙台のあるべき姿・仙台のまちづくりの主な意見

分野	意見
経済	・他都市と比較すると、まちづくりに関する補助や施策が弱い。他都市は、 <u>お金を投入するポイント</u> がはっきりしている。 ・大きな再開発だけでなく、 <u>小さなまちづくりに対する支援も必要</u> 。
文化	・伊達の文化をもっと見せてはどうか。見せ方でもっと仙台をアピールできる。
交通	・欧米のように「歩いて生活できる街」を作るのに <u>税を投入すべき</u> 。
環境	・公園などはやはりほしい。 <u>人が集まるコアのようなものが必要</u> 。

## ■これからの仙台のまちづくりについての主な意見

分野	意見
意識	・「東京」を意識するのではなく <u>アジア等の海外目線での「東北」意識を持つ</u> 。
人	・仙台は常に人が入れ替わる。その人たちが短期間で仙台を好きになれるように、 <u>溜まる場所があるといい</u> 。 ・若者に愛される街に、 <u>夜の賑わいや子育てのしやすい環境が残りたいと思わせる</u> 。
情報発信	・ <u>エリアごとのブランディング</u> 。切り取り方／見せ方を上手く。
教育	・家族で住みたい街にする。子どもの学力・教育が重要で、教育のICT化などは効果的。

## <まとめ>

### 学生

- まちなかへの動線の維持・強化、周辺エリアの関連機能の集約・増進を図り、各エリアの特色を強化して、環状にそれらをつなぎ、「めぐり・あう街」を実現

### まちづくり専門家

- 文化や交通、環境等の仙台らしさを大切にして、まちづくりとして重点的なところには投資すべき

### 転勤者

- 子育てのしやすい環境や子どもの教育環境の充実により、家族で住みたい街に
- 来訪者や若者に愛される街となるため、魅力的な人・モノに出会える溜まり場づくりや夜の賑わいが重要